

状の層ができ、さらに、外周を紅斑が取り囲む、いわゆる虹彩状病変がみられ、多形滲出性紅斑といわれる。

口腔病変は大部分にみられ、皮膚疾患と同時か、やや遅れて出現する。口腔粘膜に紅斑や上皮内水疱を生じ、破れて、びらんあるいは潰瘍を形成する。

重症型は、スティーブンス・ジョンソン症候群といひ、さらに中毒性表皮壊死症（TEN）に進展するものがある。

病理組織学的に、上皮型では上皮下水疱と高度な炎症性細胞浸潤が、上皮型では上皮内水疱と基底層の液化壊死がみられ、その混在型もある。

単純性骨嚢胞 simple bone cyst

顎骨内に発生する偽嚢胞である。嚢胞内に少量の血性、または漿液性の内容液を入れている。成因として、外傷説が一般的だが、骨の局所的形成発育異常、血流異常や出血による変化も考えられている。

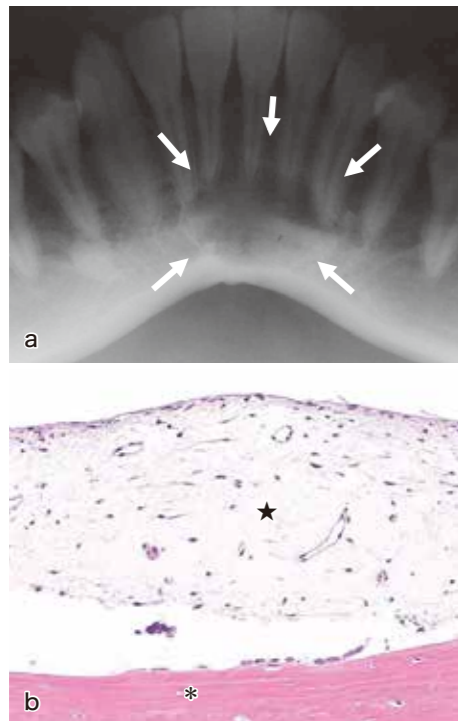


図8 単純性骨嚢胞
a：下顎正中部にホタテ貝状のエックス線透過像を認める。 b：裏装上皮はみられず、骨（*）の内側には細胞成分に乏しい線維性結合組織（★）のみを認める。

〈臨床症状〉

- ・下顎前歯部や下顎大臼歯部に多い。
- ・10歳代に多い。
- ・無症状で経過するが、増大すると膨隆や疼痛を認めることがある。
- ・嚢胞に隣接する歯は生活歯である。
- ・画像所見では、境界明瞭な、ホタテ貝状のエックス線透過像を示す（図8-a）。

〈組織学的所見〉

- ・裏装上皮はみられず、菲薄な線維性結合組織のみからなる（図8-b）。
- ・内腔に凝血が認められる。
- ・明らかな嚢胞壁構造を示さない場合もある。
- ・嚢胞周囲には、反応性骨形成がみられ、線維性異形成症や骨形成性線維腫に類似した病理組織像を示すことがある。

単純疱疹 herpes simplex

単純ヘルペスウイルス（HSV）の感染により有痛性の水疱を形成する。水疱は破れ、びらんとなる。1型（HSV-1）は口腔、皮膚、眼にみられる。2型（HSV-2）は性感染症の1つで、性器とその周囲にみられる。

口腔では、HSV-1の初感染により疱疹性歯肉口内炎を発症し、その後、神経に潜伏し、回帰感染として単純疱疹を発症する。唾液などの分泌物が感染経路となる。また、三叉神経節の神経細胞内に潜伏感染する。

病理組織学的に、上皮内水疱、感染細胞では、大型した風船（バルーン）変性や、多核化、核内封入体が認められる。

チェディアック・東症候群 Chédiac-Higashi syndrome

免疫不全症で、常染色体劣性遺伝による。易感染性であり、重篤な歯周疾患を合併する。

中心性巨細胞病変（修復性巨細胞肉芽腫） central giant cell lesion

顎骨中心性にみられる限局性の腫瘍様病変で、破骨細胞様の多核巨細胞を多数認める。修復性巨細胞肉芽腫ともいわれる。

〈臨床症状〉

- ・顎骨が好発部位で、下顎に多く、短管骨（中手骨、

中足骨）、長管骨（大腿骨、上腕骨）、脊椎骨にも生じる。

- ・30歳代以下に生じ、10～20歳代の女性にやや多い。
- ・無症状で、緩徐に発育する非侵襲性タイプが多い。
- ・侵襲性のタイプでは、疼痛、腫脹、歯の動揺や歯根吸収を認める。
- ・大きなものでは、摘出搔爬後に病的骨折をきたす。
- ・境界明瞭な、単房性ないし多房性のエックス線透過像を示す。

〈組織学的所見〉

- ・線維性間質を背景に、紡錘形の異型に乏しい線維芽細胞あるいは筋線維細胞が渦巻き状や束状に増殖する。
- ・多核巨細胞が、小嚢胞や出血巣の周囲に不均一に分布する。
- ・間質にヘモジデリンの沈着を認める。
- ・反応性に骨や類骨を形成し、核分裂像も頻繁に認められるが、異型核分裂像はない。
- ・骨巨細胞腫に比べて、多核巨細胞の分布が均等でなく、核数が少ない（図9）。
- ・脈瘤性骨嚢胞に比べて、血液を入れた腔、毛細血管、出血が少ない。
- ・顎骨に家族性に発生するのはケルビズムである。

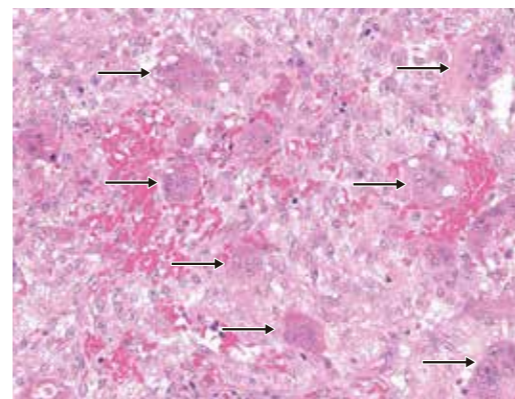


図9 中心性巨細胞病変
線維芽細胞様細胞の増生と出血を伴う線維性間質を背景に、多数の多核巨細胞（矢印）を認める。

手足口病 hand, foot and mouth disease

コクサッキーウイルス A-4, 5, 10, 16 またはエ

ンテロウイルス 71 により引き起こされ、手、足、口腔粘膜に水疱を形成する（図10）。

一般的に、乳幼児に好発する。口腔病変は頬粘膜、舌、口唇、口蓋、歯肉にみられる。



図10 手足口病
水疱がやぶれ、発赤がみられる。

テイ・サックス病 Tay-Sachs disease

GM₂ガングリオシドの分解酵素であるβ-ヘキサミニダーゼAの欠損により、神経系にGM₂ガングリオシドの蓄積をきたす先天性神経変性疾患である。

脳内に多量のGM₂ガングリオシドが蓄積されることにより、2～3歳までに死亡する。

伝染性単核球症 infectious mononucleosis

EBウイルス（EBV）を含む唾液によるBリンパ球への感染は小児期に生じるが、ほとんど不顕性感染に終わる。しかし、唾液中には感染性ウイルスが排出されており、思春期に初感染を受けると、その半数が伝染性単核球症を発症する。発熱、咽頭痛、頸部リンパ節腫脹を生じる。ポール・バネル反応陽性を示す。

キスによって発症することから kissing disease ともいわれる。リンパ節や脾臓に分葉した偏在核と、空胞状の細胞質を有する異型リンパ球が出現する。

動脈硬化症 arteriosclerosis

粥状動脈硬化症が最も重要で、粥腫（アテロームともいう）を形成する。粥腫は動脈の内膜側にできる。

軟骨肉腫 chondrosarcoma

硝子軟骨形成を示す腫瘍の総称で、原発性（通常